

2025年4月5日(土)在京佐高会“小さな旅”
葛飾柴又帝釈天・参道・寅さん記念館散策写真集



**葛飾柴又は
日本人の心のふるさと**

山田洋次監督とスタッフは、当時、物語に
相応しい場所を求めて、東京近郊のあらゆる
候補地に足を運びました。イメージに合う場所が
なかなか見つからず、諦めかけたときにたどり
着いたのが、豊かな自然とそこに住む人々の
温かい暮らしが息づいているまち、葛飾柴又
だったのです。以来、映画ではシリーズ全ての
作品で撮影が行われています。

その葛飾柴又が平成30年2月13日に、都内
で初めて国の重要な文化的景観に選定されま
した。「葛飾柴又の文化的景観」は、地域の
人々の生活、歴史、風土などによって形成され
たものであり、伝統的な情緒や雰囲気を受け
継いだ日本を代表する景観地のひとつとして評価
されたのです。



「小さな旅」桜が咲き青空広がる一日でした！



柴又帝釈天(経栄山題経寺)参拝記念写真



帝釈天(經榮山題經寺)の堂内を拝観、建築・彫刻の説明を聴き、見事な庭園をゆっくり堪能できました！



「寅さん記念館、山田洋次ミュージアム」では展示コーナーを観覧。



「男はつらいよ」とは

「男はつらいよ」の始まりはテレビドラマでした。少年時代に憧れたテキ屋の思い出話を生き生きと語る渥美清の姿に魅了された山田監督がイメージを膨らませて、旅暮らしのフーテンの寅、いつもその兄を案じている妹さくら、参道で団子屋を営むおいちゃんおばちゃん、近所の人々が織りなす下町情緒あふれる物語を紡ぎだしました。ドラマが「フーテンの寅がハブに噛まれて死んでしまう」という最終回を迎えると、テレビ局に抗議が殺到。感銘を受けた山田監督が映画化を企画し、翌年1969年8月に映画『男はつらいよ』が公開されました。1997年までに特別篇を含む49作品、そして、2019年には待望の50作目が制作され、国民的人気シリーズとして、今でも愛され続けています。



展示物や写真を懐かしく見て回り、昭和の時代にタイムスリップしたひと時、時間が経つのも忘れる程でした。



堅い絆の在校佐高会の皆さん、笑顔・笑顔・笑顔いっぱいの懇親会でした！！



【第22回「小さな旅―葛飾柴又―」を振り返って】

今年の小さな旅は、令和7年4月5日(土)、「フーテンの寅さん」でお馴染みの東京都葛飾区柴又の地を訪れました。柴又駅前にある「寅さん・妹さくら」の銅像前に集合、映画でお馴染みの、懐かしい昭和が漂う参道を歩いて「柴又帝釈天(経栄山題経寺)」に到着。集合記念写真を撮影後、参拝してから説明ボランティアの方の案内で堂内の建築物や彫刻そして美しい庭園を回遊・見学しました。「帝釈天の歴史や意義の奥深さ」に触れたと思います。その後、皆さんと「寅さん記念館・山田洋次ミュージアム」に行きました。「寅さんにまつわる時代背景の説明」を聴き、「映画に登場した人達やマドンナのポスター」「映画のセット」等どれをみても「ああそうだったね!」と昭和のノスタルジーに浸ることのできたひと時でした。今回は男性7名・女性11名合計18名の方に参加いただきましたが、「在京佐高会」の皆さんの日頃の行いが良かったと見え、天気も晴れて、春の陽光を浴びながらのとても気持ちの良い旅となりました。

この後、男性7名・女性6名、計13名の方に参加いただき、柴又駅から金町駅近くの懇親会場へと向かいました。美味しい食事とアルコールも入って話も弾み、時間が経つのも忘れる程笑いの絶えない盛り上がりで、懇親を深め合ったとても楽しい機会となりました。帰りには、皆様と別れを惜しみつつ再会を約して散会致しました。

「小さな旅」担当、常任幹事 寺島 邦義



寺島邦義さん・佐藤恵子さん
小さな旅担当ご苦労様でした。